

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域の様々な人々と連携・協働し、夢の実現をめざして本気で挑戦し、自ら考え行動できる人材を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。
- 3 外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲のさらなる向上、学習習慣の確立を図る。

ア ICT 機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫・改善をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす。

イ 教員相互の授業見学等を日常的に実施し情報交換を行う中で、授業のコツやノウハウを共有し、授業改善・授業力の向上に取り組む。

また地域の中学校と連携し、相互授業見学を推進する。

※授業アンケートにおける授業満足度について **80%以上**を維持する。(H30 **80%** /R01 **80%** /R02 **80%**)

(2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

ア 3年間を見通し、1年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。

イ 補習・講習について外部教育産業とも連携しながら、生徒一人ひとりの進路支援体制・学習支援体制のさらなる充実を図る。

※生徒の進路達成満足度について **90%以上**を維持する。(H30 **97%** /R01 **98%** /R02 **98%**)

2 安全安心な学びの環境を整えるとともに、規範意識や人権意識を育み、生徒一人ひとりに社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけさせる。

(1) 生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

ア 学年団、生徒指導部の連携を強化し、学校全体が同じ基準でぶれない生徒指導・支援体制の充実を図り、遅刻指導、挨拶や礼儀・マナーの指導に全教職員が継続して取り組む。

イ クラス活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、生徒の自主性を重んじながら社会的基礎力を育成する。特に行事の活性化に取り組む、学校生活に対する充実感を高める。

また、部活動を通して、何事にも一生懸命取り組み、継続して活動できる力を育成する。

※保護者向け学校教育自己診断における生徒指導体制への肯定率を令和5年度には **70%以上**とする。(H30 **68%** /R01 **51%** /R02 **51%**)

※各行事に対するアンケート結果による満足度について **85%以上**を維持する。(H30 **87%** /R01 **90%** /R02 **94%**) ←実施できた体育祭のみの数値

(2) 生徒一人ひとりの支援体制・教育相談体制について、保護者及び専門関係機関と連携しながら充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を次年度以降 **75%以上**を維持する。(H30 **63%** /R01 **73%** /R02 **72%**)

(3) 情報ネット社会における人権侵害やいじめなど今日的課題について学び、人権意識を高める教育活動をさらに充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する肯定率 **80%以上**をめざす。(H30 **77%** /R01 **79%** /R02 **77%**)

(4) 自然災害等を含め緊急事態発生時に迅速かつ適切な対応ができる連絡体制の徹底を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における、学校安全に関する項目の肯定率を令和5年度には **80%以上**とする。(H30 **66%** /R01 **75%** /R02 **74%**)

3 英語をはじめとする外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

(1) 英語や他の外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題解決能力・探究力の育成を図る。

ア 少人数展開授業、ICT 機器等の活用、アクティブラーニング型の授業等により、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践しながら4技能（読む、聞く、話す、書く）をバランスよく伸ばす。

イ 姉妹校交流の充実、夏の海外研修、インターナショナルデイキャンプ、これらを充実・発展させ、さまざまな国々との交流等を通じて実践的語学力をさらに向上させる。

ウ 第2外国語の成果発表会（校内・校外）を行うとともに、スペイン語の導入について検討をする。

※外国語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度について次年度以降 **80%以上**を維持する。(H30 - /R01 **79%** /R02 **81%**)

(2) 国際教育、ESD（持続発展教育）に関する行事の充実・発展に取り組む、ユネスコスクールとして国際教育のレベルアップを図る。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率について **85%以上**を維持する。(H30 **87%** /R01 **87%** /R02 **82%**)

4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信をさらに推進する。

(1) 中高連携、高大連携、地域連携等を密にし、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(2) ホームページ・携帯連絡網等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を令和5年度には **75%以上**とする。(H30 **63%** /R01 **71%** /R02 **62%**)

5 校内運営体制の改善と人材の育成を推進する。

(1) 業務の精選と簡素化を図ると同時に、教職員の意識を高め、時間外業務の減少をめざす。

(2) 「育てたい生徒像」を念頭に、本校の将来を見据えながら、教員を育成するシステムの構築を図る。

※時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、令和5年度には1割減（R02年度比）とする。

(3) より確かな人権感覚を身につけ、ハラスメントのない快適な同僚性の高い環境をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力を身につけ、 自らの力で課題を乗り越えられる生徒を育成	(1) 生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。 (2) 生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。	(1) アイ ・「授業見学週間」を設け、教科を越えて情報交換を密に行ないながら、授業改善を推進するとともに、「観点別学習状況の評価」についての調査・研究を行う。 ・中学校との相互授業見学システムを継続し、中高連携を促進すると同時に高校における授業の在り方を考える。 ・1人1台端末の導入に向けて、これまでの学習スタイルにICTをいかに組み合わせていくかについて検討する。 (2) 学校全体で「学習する体制づくり」に取り組む。 ア 勉強会・講習・補習を組織的に計画・実施する。 イ 長期休業中の講習について、外部教育産業とも連携し、進路実現に向けた内容を充実させる。また、臨時休業時や登校できない生徒に対し、オンライン・ICT活用による教材提供をする。	(1) アイ ・授業アンケートの満足度 80% 以上を維持する。【 80% 】 ・生徒のICT活用授業の肯定率 90% をめざす。【 89% 】 ・R4実施の「観点別学習状況の評価」の調査・研究チームの活性化 校内研修4回 ・積極的に授業見学・情報交換に参加する教員率について 80% 以上を維持する。【 80% 】 (2) 生徒向け学校教育自己診断における「勉強会・講習・補習等」についての肯定率について 75% 以上を維持する。【 75% 】	
2 安全安心な学びの環境整備、規範意識・	(1) 規範意識を身につける指導体制を確立する。 (2) 生徒一人ひとりの支援体制を確立する。 (3) 人権意識の向上を図る (4) 緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図る。	(1) ア 学年間・生指部の連携を強化し、遅刻指導、身だしなみの指導等、学校全体で同じ基準で生徒に対応する体制を整える。 イ 感染症対策を継続しながら、体育祭をはじめとする教育活動の実施および各種行事のさらなる活性化を図る。 ・生徒の部活動継続率上げる工夫を凝らす。 (2) 生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制について、SCに加えSSW等外部関係機関と連携しながら、充実させる。 (3) 新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さない人権が尊重された教育を推進する。 (4) 緊急時の教職員の連絡体制を見直すとともに、生徒への防災教育を充実させる。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率を 45% 以上とする。【 49% 】 イ 行事の満足度を 85% 以上とする。 (R02 体育祭 94% 文化祭コロナの影響で実施できず) ・部活動継続率 75% 以上とする。【 71% 】 (2) 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を 75% 以上とする。【 72% 】 (3) 生徒向け学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」を 80% をめざす。【 77% 】 (4) 生徒向け学校教育自己診断における学校安全に関する項目の肯定率を 77% 以上とする。【 74% 】	
3 外国語教育、国際教育のさらなる充実	(1) 外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。 (2) 国際教育、ESDの充実・発展に取り組む。	(1) ア 少人数授業の利点を活かし、生徒が主体的・意欲的に取り組む授業を展開することで、4技能をバランスよく伸ばす。 ・第2外国語において、共通した教授法の開発に取り組み、成果発表の場を設ける。また、スペイン語開設に向けて調査・研究を行う。 ・各種英語学力調査を継続活用し4技能向上の指標とする。 イ 姉妹校交流をはじめとする国際交流行事、英語インターナショナルデイキャンプを含む英語での研修等を通じて、実践的英語力をさらに向上させる。コロナの影響で実施不可の場合はオンラインを活用して交流を図る。 ウ 第2外国語の成果発表会を行い、外部に公開する。 (2) Society5.0の到来に向け、校内における国際教育、ESDに関する行事(ユネスコスクールの取組みを含む)を企画・運営する体制を整え、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。	(1) ア 外国語に関する授業アンケート満足度 80% 以上を維持する。 【英語 81% 】 【第2外国語 89% 】 ・英語学力調査で、国際文化科において全国平均を上回ることをめざす。(R02 スピーキング、ライティング部門で○) イ 国際交流、インターナショナルデイキャンプ等各行事の参加者の満足度 80% をめざす。 (R02 コロナ禍で交流関係が実施できず) ウ 成果発表会の満足度 80% をめざす。 【前年度-】 (2) 生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する肯定率 85% 以上を維持する。【 82% 】	
4 ある学校づくりと情報発信	(1) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。 (2) 広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。	(1) 学校、学年また各教科、クラブ単位等様々な形で、市役所、保育所、小中学校・大学・福祉施設等と連携する取組みを積極的に企画実施する。 (2) ・広報活動について、学校全体で取り組む体制を確立する。 ・学校ホームページを魅力あるものに工夫・改善する。 ・また、保護者携帯へのメール送信に関して、内容を充実させるとともに、タイムリーな発信を心掛ける。	(1) 参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度について 80% 以上を維持する。【 92% 】 (2) 保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を 70% 以上とする。【 62% 】	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1)業務の精選と簡素化、時間外業務の減少をめざす。</p> <p>(2)教員を育成するシステムの構築を図る。</p> <p>(3)より確かな人権感覚を身につける</p>	<p>(1)教職員の負担軽減を考慮しながら、業務の見直しを図り、校務の効率化を図る。</p> <p>(2)首席・指導教諭が中心となって、教員の実践的な「アクティブラーニング型教員全体研修会」を定期的実施し、校内の意思形成を図る。</p> <p>(3)研修を通して、より確かな人権感覚を身につけ、ハラスメントのない快適な同僚性の高い環境を引き続きめざす。</p>	<p>(1)時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、前年度比減をめざす。[217 時間 17 分]</p> <p>(2)(3)教員研修に関するアンケート調査において、肯定回答率について70%をめざす。[80%]</p>	
--	--	--	--	--